

2面・3面 巡回公演だより／「ほんわか劇場」の告知／すぎのこ
保育教材のご案内 ほか
4面 助成事業報告／研修センターのご案内 ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: support@suginoko.org



「文化芸術立国に思う……」

理事長
小澤 幸雄

明けましてお目出度うございます。皆様におかれましては、新しい年を迎え、飛躍への第一歩を踏み出された事とお慶び申し上げます。

すぎのこも今年は公益法人
法施行による「公益財団法人」
への移行認定申請のための最
終段階に入るところです。

☆全国巡回公演功罪の先に…

昭和39年東京オリンピック開催の年の8月、どんな離島山間僻地の子ども達にもナマの舞台を届けようとの思いから立ち上げた「劇団すぎのこ」は、昭和55年5月、文部省から公益法人として認められ、去る12月末日までの46年間に七万四千六百余回（年平均千六百余回）の公演で約七千三百四十万人（年平均十六万人弱）の子ども達にナマの舞台の感動を届け、最初にすぎのこを観劇した子ども達は間もなく50歳になろうとしています。

お陰様で巡回公演先の保育園幼稚園を始めとする幼児施設等で、人形を人形劇のみならず、生活指導や言語指導など一般保育にも活用される施設が多々聞かれるようになって

た事は、保育の場における人形劇がかなり普及浸透されてきたものと、巡回公演先駆者を自負する者として喜びを禁じ得ないところであります。

一方、自称人形劇愛好家達によるアマチュア・セミプロ・プロを問わぬ集団が各地に乱立し、その折々の都合によって無料・低料・有料と節操のない公演が横行し、人形劇の質や品位をおとしめている集団の中にはあり、先駆者としてはその責任をも痛感するところであります。

過去50年近い全国巡回公演の中で、保育における「人形劇の普及」という側面はそれなりに果たせたと考え、これからは保育における「人形劇の高揚」という側面も重視して進めて行かねばと考え公演施設のみならず、地域に派生した集団の質的高揚も併せて考えて行かなければならない。そのためにも公益財団法人の移行認定を受け、組織的で広範な運動としての展開を考えて行きたい。

☆文化芸術立国の一翼を…

平成13年12月、我が国にも遅れ馳せながら「文化芸術振興基本法」が施行され、翌14年12月には「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第一次基本方針）」が提示され、それはおおむね5年を目標に見直して行くとされ、平成19年2月には「第二次基本的方針」が打ち出された。

その中で目を引いたのが「文化芸術の基本的方向・文化芸術の振興の意義」の中に「文化の中核を成す文化芸術は国民全体の社会的財産であり、一層の振興を図ることにより『文化芸術立国』を目指すことが必要」とのくだり。

今、文化芸術に携わる者の中にこの法律や方針を理解し行動している者は一体どれ位いるだろうか、法律の存在すら知らない者がいる程縁の薄さを感じる。私自身この法律を実感したのは施行後9年間に一度だけ、私も理事の末席に名を連ねる「豊島区舞台芸術振興会」を所管する「豊島区」が、優れた文化芸術行政を展開していると認められ、最近創設された「文化芸術創造都市」表彰を文化庁長官から受賞した時だけである。

最も我が国の文化予算は国家予算比0・12%で、フランスの0・81%と比べると僅か15%、隣国韓国と比べてもほぼ16%でしかない(平成21年比)。文化芸術立国が見えてこないのは当然と言えば当然かも知れない。

とは言え、手をこまねいていても何も始まらない。この法律を支えに、公益財団法人移行認定を梃子に、理想の「文化芸術立国」を現実のものとするためにも体制を整えて行かなければと考えている。

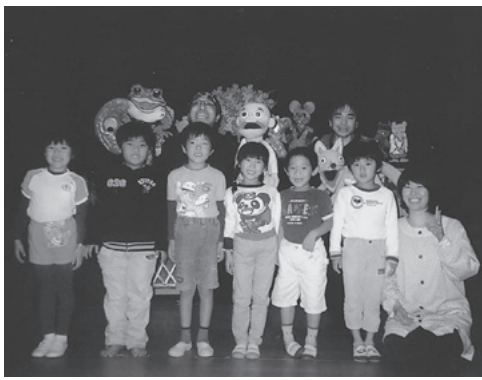
皆様のご指導・ご鞭撻を本年も宜しくお願い致します。

ねずみの嫁入り

「ねずみの嫁入り」班

2011年の始まりです。新年明けましておめでとうございます。本年もすぎのこは、ナマの舞台の感動を全国の子ども達へお届けできるよう、団員一同気持ちを新たに進んで参ります。

昨年「ねずみの嫁入り」班は、1学期北海道を皮切りに、2学期は九州をかけ巡りました。記録的な猛暑は夏が過ぎても収まらず、特に九州では10月下旬に入っても半袖で平気なほど、残暑が続いていました。さすがに今では半袖を着る！という訳にはいきませんが、たまにあの暑さが愛しくなる時があります。「のど元過ぎれば熱さを忘れる」というのは、こんな気持ちになる事をいうのかも知れませんが、巡回公演を巡る中で、時折夜



(夕方)の公演(親子観劇)と

いうのがあるのですが、昼間の公演とは一味違った雰囲気を感じます。お父さんやお母さんの膝元に抱っこされてニコニコと笑っている子ども達の表情を見ていると、自分の子どもの頃を回想して、とても気持ちが暖かくなります。懐かしさが子ども頃の記憶の扉を開けるのでしょうか。

劇中の話を一生懸命話す子ども達と子どもの夢を壊さないように話をする親御さん達の会話を聞いていると、本当に心から嬉しさが込み上げてきます。こんな思いを胸にして、本年も各地を巡って参ります。よろしくお願いいたします。

(浅野 武久)

「どろぼうのなみだ」撫子班

「どろぼうのなみだ」は今年度の新作として、試行錯誤の一年でした。人形と一緒に涙を流す子ども達の純粋な心に感動し、「楽しかったよ!」と言う子ども達の笑顔に支えられ、毎日一杯演じてきました。気づけばもう新しい年...という感じです。

私達、撫子班は女性二人の班です。今はずいぶん慣れた巡回車の運転も、当初はとても上手とは言えませんでした。ある村で早朝、タイヤを路肩から落と

してしまったこともあり、その時は、途方に暮れる私達のところへ、村のお年寄り達が集まってきて、一緒に車を押し

て助けてくださいました。

また上演先の園の先生に、「女の子二人の旅では、親御さんにご心配でしょうね。今日は実家に電話してあげてくださいね」と言われたことがあります。私達のことだけでなく、私達の両親のことまで思いやってくださった言葉が、本当にありがたかったです。



たくさんの方に支えていただいた一年でした。その感謝の気持ちを忘れずに、今年も前を向いて精進して参りたいと思っております。撫子班をよろしく願っています！

(浅野 茜子)

「泣いた赤鬼」班

私達すぎのこは、公演をご覧くださった際のご感想を後程うかがえるよう、上演に関するアンケート用紙をお送りしています。返送してくださったアンケ

ートは、各上演班のメンバーが旅先から戻ったとき、必ず目を通しており、人によっては他の班のアンケートものぞき見ては、「うんうん、がんばってやるな」などと対抗心を抱きつつも、次の公演への励みにしています。

ただくことがあります。

このようなアンケートと出会った時、自身の未熟さへの忸怩たる思いとともに、こうしたご意見をお送りくださった先生方への強い敬意と感謝の念が湧き上がってきます。

先生方からいただくアンケートは、私達の日々の公演、皆が常に最大限の熱意をもって演じている芝居は、それだけをもつてよし、とすることはできないのだ、という基本に立ち止まり、よりよい作品への昇華を目指す意志を、あらためて認識する一つのきっかけをあえてくださっているのだと思います。

以前、とある園の園長先生から、子ども達の芝居を見る目は大人よりもよほどシビアで残酷であり、興味を失ってしまえば即座に切り捨てられる、というような趣旨の話をうかがいました。そして事実、その時の公演で、まさにそれを実感させられたのでした。

そのような時は、演者がなんとか興味をひきつけようと悪戦苦闘すればするほど、子ども達



は話から離れていつてしまうように、子ども達は、演者の存在を飛ばして、話の中で生きていく人形の言葉や動きそれ自体に共感して楽しんでいるのだなあと痛感させられました。

旅公演を終え本部に戻ってみると、その園からアンケートが届いていました。

「来年、また楽しみにしています」とのこと。身が引き締まる思いでした。

(植崎 数馬)

「かもとりごんべえ」班

新年あけましておめでとうございます。

一昨年は、新型インフルエンザの流行により、巡回公演の活動も影響を受けましたが、今年の冬は、今のところ順調に進んでいます。引き続き、無事に今年度が終了することができればと、願っています。

さて、かもとりごんべえ班は、昨年は、新潟県・九州各県・首都圏：と日本中を駆け巡りました。今年も、首都圏を中心に公

演します。

今回の作品は「かもとりごんべえ」「証城寺の狸ばやし」の二本ですが、どちらとも子ども達が参加して、進めていく作品に構成されています。ですから、上演ごとに反応が様々で、先日の「証城寺の狸ばやし」の上演でも、和尚さんに狸がなぜだぞをだすのですが、子ども達に、狸が「答えが解っても、和尚さんに教えないでね」とお願いして、その場を離れ、その間に、和尚さんが、子ども達に「おい、わしに答えを教えてください」と言う子ども達から「狸さんと約束したから、教えない」という大きな声。いつもは子ども達が和尚さんに答えを教えてくれるのですが、このような展開に和尚さん役の原口千恵はさすがに困惑していましたが、アドリブで何とかのりきり、盛況のうちに、無事、上演を終了しました。

巡回公演では、何がおこるか

わからない、正にナマの舞台の

楽しさ、醍醐味があります。

今年も、たくさんの子ども達との出会いが待っています。質の高い人形劇をお届け出来るように、精進して参ります。

(下村 あきら)



「たにし長者」

班

去年の12月、とある東北の幼稚園で、母親の皆さんと子ども達一緒に観劇の時の事です。ややもすると、私の娘くらいの子で、元気なジーンパン姿のお母さんが、「たにし長者」の上演前の挨拶で子ども達へ「たにしって知っている？」と聞いたのですが、案の定「知らない！」との声が返ってきました。

すると、その若いお母さんは事前に「たにし長者」の民話や絵本を図書館などで探し、しかもダンボールに紙を貼って、「たにし」の形の絵を作って見せてくれたのです。

私達も司会で「たにしは田んぼや川の中にいる小さな貝だよ」と言葉で説明するのですが、これは良いアイデア「この手があったかー！」と思わず合点してしまいました。

その後の劇中では、子ども達

は「たにし」に興味深々、お話の中に入り込んで観てくれた様子でした。

これはやはり母親の想い、愛情の成せる事でしょう。その園も来年は子どもが少なくなり、廃園になってしまうそうです。

親子関係や子育てについて様々な問題がクローズアップされている昨今ですが、冬の寒い夜、布団の中で親子が一緒に身体を寄せ合い、物語を紡ぐ絵が浮かぶ湯たんぽの小宇宙。

今年の干支、兎にちなんで、子ども達が大きな目と耳で人形劇の世界を飛び跳ねる初夢を見たいものです。
(榎本 均)



巡回公演に参加して

原口 千恵 (フリー)



今回久しぶりに巡回公演をさせていただいて、改めて思ったのが、やはり旅は一期一会だな、ということでした。

それは勿論園の子ども達や先生方をはじめとする関係者の皆さん、宿泊先や観光先での出会いだったり、普段の生活ではなかなかない、人との出会いを沢山しました。

そういった出来事がお芝居にも反映され、よりよい作品がみなさんにお届けできることの一つの過程でもあると思います、より一つ一つの出会いを大切にしていこうと思いました。またこういう機会ができたことが嬉しいですし、前回の反省等をふまえ、更に新たな気持ちで1公演1公演臨みたいと思います。

いつも、お友達からの「楽しかったよ！また来てね」という言葉には温かい気持ちにさせられ、励みになります。またいつ会えるか、はたまたもう会うことはないかもしれない、そう思うと寂しいですが、こうした一期一会だからこそ本当に大切に思います。

子ども達にも私達に出会ったことや、人形劇を観たことで何かを感じてもらえたらいいなと思っています。

これからも沢山の色々な出逢いを楽しみに、そしてまたいつか、どこかで、皆さんにお会いできる日を楽しみに頑張っていきたいと思います。

すぎのこの保育教材

保育者のための…
人形劇じゃない人形劇

この本は、すぎのこが人形劇をもって全国の幼稚園保育園を巡回公演する中で、人形劇を保育に取り入れている施設の先生達から受けた質問に、保育の場における人形劇の考え方を説いた指導書です。



お金をかけず、時間をかけず、それでいて効果的な人形や舞台、セットの作り方や使い方などを、イラストをふんだんに入れて解りやすく解説した保育者必携の書です。

著者／小澤アキラ 定価：2,000円 (税込み)

地球環境を大切にする
絵本シリーズ

「とべ！ドードー」など巡回公演でもお馴染みの原作の絵本です。

定価：各1,500円 (税込み)



日常の保育の中に影絵芝居を

影絵紙芝居とは、影絵でできた紙芝居です。大きさは一般の紙芝居と同様ですので、手軽に日常の保育の中に影絵の美しさを活用することができます。そんな影絵紙芝居の作り方をていねいに解説したDVDです。



「影絵紙芝居の作り方」DVD

上田順一／監修

定価：3,150円 (税込み)

「ほんわか劇場」(一人芝居)

いよいよ始まりま～す。

中学の恩師が卒業のときに、『人間とは、人と人の間で生きるもの』と色紙に書いて贈ってくださいました。十五の私は、人間という言葉の意味を知った喜びと、尊敬する先生が書いた『人間』という文字の力強さに胸が熱くなったことを覚えています。

新春より始まる「ほんわか劇場」は、短編の三本立てです。共通のテーマは、「人間っていろんな人と関わって生きているんだなー」ということ。演技手は私一人ですが、心の根っこができる時期の子ども達に、心の栄養を届けたい。

笑って泣いてときどきして、「ほんわか劇場」を体感してください。今の私は「ほんわか劇場」で、たくさん子ども達や先生、ご父兄と出会えると思うと、わくわくドキドキすると共に、気の引き締まる思いでいっぱいです。(和田 宣子)



東京都の子どもたちから宮崎県の子どもたちへ。人形劇のプレゼント

宮崎県の皆様におかれましては、口蹄疫のためにたいへんなご苦労とご心配をされたことと思います。ここからお見舞い申し上げます。

宮崎県のこどもたちに、特に今年度卒園する年長児さんになにか素敵な思い出を残して頂きたいと、東京都私立保育園協会より、宮崎県保育園連盟にご寄附があり、それには人形劇が一番と、すぎのこに白羽の矢が立ちました。

宮崎県の子ども達は口蹄疫の終息宣言がでるまで、全ての行事を我慢しなくてはなりません

でした。ウィルスの拡散を防ぐ為、公共施設の使用や集会を自粛せざるをえなかったからです。東京都私立保育園協会様のお心と、宮崎県保育園連盟様の期待に応え、保育園での素敵な思い出として子ども達の心にいつまでも残る作品をお届けしたいと思っています。

宮崎県のお友達、楽しみに待っていてくださいね。

(榎本 千里)



平成22年度 芸術文化振興基金助成事業



芸術文化振興基金
助成事業

日本芸術文化振興会の助成事業「どろぼうのなみだ」全国巡回公演は、昨年、中国・四国・九州地方を中心に活動を展開し、観劇された多くの皆様方からご好評の声をいただきました。

今年度の「どろぼうのなみだ」全国巡回公演助成事業では、人形劇と影絵のコラボレーションによる作品を制作しました。商業劇団ではなかなかうかがえない、全国どこでもどんな小規模施設でもうかがって人形劇・影絵劇に親しんでもらい、未来を

研修センターのご案内

当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会（現財団法人JKA）の補助により建設された「すぎのこ山荘」と日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦恋研修センター」並びに埼玉県に日本宝くじ協会の助成により建設された「すぎのこ飯能研修センター」があります。



飯能研修センター



婦恋研修センター

いずれの施設も緑ゆたかな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地しています。
音楽や演劇等の芸術文化活動はもちろん、どなたでも時間を気にせず、自由にのびのびと、お使いいただける施設です。合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討下さい。（利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません）

「婦恋研修センター」は、一年を通じてレジャーや野外活動の拠点としてご利用いただける他、敷地内にはテントサイト（シャワー・トイレ完備の専用洗面棟併設）やバーベキューが楽しめる集会棟、アスレチック、テニスコート等も整備され、多目的に活用できる施設です。
「すぎのこ飯能研修センター」は、都心から電車で約一時間程度の場所にあるながら、閑静で落ち着いた環境に恵まれ、135㎡の多目的フロアの他、研修室、和室、男女更衣室、シャワールーム等も完備しており、様々な研修や芸術文化活動に広くご利用いただける施設です。
各施設の利用可能な日や時間等、詳細につきましては、左記へお問い合わせ下さい。
皆様のご利用を心よりお待ちしております。
婦恋研修センターに関するお

担う子ども達の情操と創意性を育むと共に、地域における芸術・文化・児童教育に携わる方々の創造活動への人形劇・影絵劇の可能性を示唆する事を理念として活動を継続しております。
平成22年12月末迄の助成事業実施日数及び回数は、次の通りです。
日本芸術文化振興会のご支援に心よりお礼申しあげます。

計	129日	242回
鳥取県	7日	14回
山口県	14日	28回
香川県	2日	3回
愛媛県	6日	12回
徳島県	1日	2回
福岡県	27日	54回
熊本県	4日	4回
大分県	3日	8回
佐賀県	5日	6回
長崎県	5日	9回
宮崎県	3日	3回
鹿児島県	5日	9回
鹿兒島県	5日	9回

問い合わせ

E-mail/support@suginoko.org
または03(3984)2396

（事務局）

飯能研修センターに関するお問い合わせ

E-mail/info@suginoko.org

または042(971)4121
（下村）

劇団研究生を募集しています

すぎのこでは、子ども達に夢を届けるお手伝いをしていただける劇団員（人形劇俳優・制作者）の仲間を募集しています。
全国の幼稚園・保育園や各種イベント会場・劇場などで人形劇の公演活動を通じ、たくさんの方の笑顔に出会える事がこの仕事の魅力です。巡回公演が中心ですので、人形劇俳優は長期間の出張が可能な方、子ども好き旅好きの方で興味を持たれた方はぜひ、私達の活動にご参加ください。なお、未経験の方は研修・指導を行います。
条件や活動内容等、詳しくは事務局宛連絡ください。
E-mail/support@suginoko.org
または03(3984)2396



活動記録（平成22年10月・12月）
12/25 第二学期全国巡回公演
終了

すぎのこネットワーク（賛助会）へのお誘い

あなたのやさしさが 子どもの心を 育てます



すぎのこは子どもの理想像を「健康で好奇心が強く、行動的で創造性豊かな心のやさしい子」と定義し、その育成のため、創立以来活動を展開しています。

- 人形劇の巡回公演 ●劇場公演 ●舞台芸術による国際交流
- わんぱくクラブ・子どもの国際交流 ●講習会の開催・講師派遣
- 婦恋研修センター・飯能研修センターの一般開放

これ等の活動を支援するために設けられた賛助会〈すぎのこネットワーク〉に参加しませんか？

入会すると下記の特典があります。

- ・季刊紙“すぎのこ”を年4回配布
- ・すぎのこ主催の各種イベント（わんぱくクラブ、劇場公演 講習会 舞台稽古見学）等の優先参加
- ・婦恋研修センター（上信越高原国立公園内、宿泊施設わんぱくキャンプ場）の割引料金での利用
- ・すぎのこ飯能研修センター「ドリーム館」（埼玉県飯能市）の無料利用
- ・各種講師の紹介



会費制賛助会員			技能制賛助会員		
①賛助会費			②知識、技能、労力を提供する		
フレンド	年額	1口（3,000円）以上	フレンド	年間	2日以上
個人	年額	1口（10,000円）以上	個人	年間	5日以上
団体	年額	1口（30,000円）以上	団体	年間	10日以上

財団法人 すぎのこ文化振興財団

〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 お問い合わせ／財団事務局（清水）

すぎのこネットワーク（賛助会）／代表世話人 土倉広子

http://www.suginoko.org/ E-mail:support@suginoko.org

TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264